

4 社会性や思いやりをはぐくむ体験活動の在り方

子どもたちに生命を大切に^①する心をはぐくむためには、子どもの発達段階に応じた様々な体験活動を通して、子どもたちが、多くの人々とふれあい、社会性や、人を思いやるなど、豊かな人間性を身に付けていく必要があります。

そのため、学校においては、学年末や学年始めに学校種間における協議を実施し、児童生徒の発達課題を十分に踏まえ、活動の継続性や関連性に配慮した計画を立てることが大切です。

また、学校、家庭、地域が協力し合い、子どもたちが地域の多くの人々と触れ合う機会を設けるとともに、少年自然の家など、青少年教育施設の活用を図るなどして、活動をより効果的に進める必要があります。

体験活動 の必要性

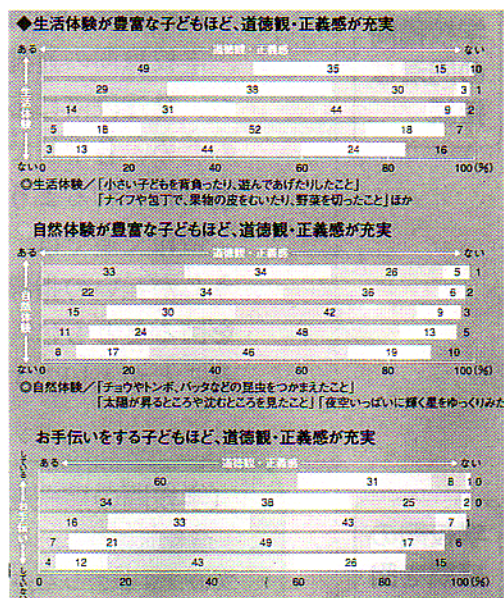
(1) 体験活動の必要性

児童生徒は、体験活動を通して
現実に向かい合い、困難な状況を
自分の力で解決する中で、自己有
用感や達成感、成就感を味わい、
他人を思いやる心、心の葛藤を衝
動的な行動に変えない力、さら
には生命を大切にする心などを
くんでいくことができます。

自然体験活動が豊富な子どもほど、道徳観や正義感が身に付いているという調査結果が出ています。

(圖表 1)

图	表
1	



文部省「子どもの体験活動等に関するアンケート調査結果」（平成10年度）
対象：小学校2，4，6年及び中学校2年生

社会性や
思いやり
をはぐく
む体験活
動

(2) 社会性や思いやりをはぐくむ体験活動

体験活動は、自然や社会、人々とのかかわりの中で展開されるため、人と人とのつながりや集団における行動の在り方などを体験を通して学ぶという点で、社会性や、ともに生きる力、さらには、命を大切にする心や思いやりの心をはぐくむ上で重要な役割を担っています。

【社会性や思いやりをはぐくむ体験活動例】

- 動植物を飼育・栽培する活動
- 地域の行事に参加し、異年齢の人々と触れ合う活動
- 幼児や高齢者、障害のある子どもたちと触れ合う活動
- 駅舎などの公共施設の清掃活動

これらの他に、少年自然の家等の施設における活動などがあります。



目標と子ども一人一人の役割を明確にした活動

学校種間の円滑な接続

学校間の接続を図る「3つのつながり」

(3) 体験活動の実施の工夫

ア 子ども一人一人の役割を明確にした活動

体験活動では、児童生徒が自然や社会、人々と主体的にかかわることができるような目標を設定し、子ども一人一人が役割をもって参加できるよう活動を工夫することが大切です。

自らの役割を果たしていくことを通して、社会規範や社会貢献の在り方、自他の権利の尊重、自他を思いやる気持ちをもち、心と心のつながりなどを養っていきます。

その際、異年齢間の交流、学校間交流、地域の人々との世代を越えた交流、国際交流、地域の自然や文化、伝統等とのふれあいなど多様な体験活動を1年間の活動の中にバランスよく位置付け、多様な活動を展開できるようにする必要があります。

イ 学校種間の円滑な接続を図るための工夫

学校種間の連携を考えるには、それぞれの学校段階の特質を踏まえつつ、発達段階に応じた体系的な体験活動を工夫することが大切です。そのため、各学校では、幼児、児童生徒がその段差を乗り越え、移行が円滑に行われるように情報交換をする必要があります。

情報交換では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の接続する校種どうしが互いの指導内容や学び方、地域とのつながりについて、共通理解を図るとともに、それらを踏まえた体験活動の設定ができるよう配慮することが大切です。

〔学校間の接続を図る3つのつながり〕

学校間のつながりを、教育の内容や方法にまで踏み込んだものにするために、次の「3つのつながり」を柱に考え、取り組んでいく方法があります。

① 指導内容のつながり

学校間の教育目標やめざす幼児、児童生徒像の共通理解を図り、発達段階に応じた広がりや深まりを考えた指導計画を作成することが大切です。例えば、中学校における体験活動の展開に当たっては、小学校における指導目標、指導内容を踏まえて指導計画を立てる必要があります。

② 学び方のつながり

・幼児、児童生徒の学び方の経験を把握し、活動に生かすことが大切です。例えば、幼児期の遊びを中心とした学びの過程を、小学校における生活科や総合的な学習の時間の学習過程に通じるものがあると考えなど、幼・小の交流の中で教師がともに幼児、児童生徒の学び方を把握し、違いを確認し、よさを取り入れることが大切です。

③ 地域とのつながり

地域の素材や人材を活用した体験活動を行っている学校が多くなってきています。そのため、学校間で教育内容等に応じた調整を図り、指導の連続性・一貫性などを考えていくことが大切です。

ウ 青少年教育施設等を活用した幅広い体験活動の工夫

青少年教育施設等では、学校や家庭で味わうことができない体験活動を行っており、それを活用することで、社会性や思いやりの心を育てる活動を一層充実することができます。

【道内の少年自然の家で実施されている事業の例（平成16年度）】

事業名「マイライフ・マイロード」

心や体に不安があり、学校生活について悩んでいる児童生徒（小学生から高校生）を対象とし、自然体験や生活体験、冒険活動等を通して、自己の在り方や人とのつながりを見つめ、よりよく生きようとする意欲を養います。

（ネイパルクッピー常呂 常呂少年自然の家）

事業名「のんびりのびのび自然体験」

不登校児童生徒（小・中学生）とその保護者及び教職員を参加対象とし、集団生活体験や自然体験などを通して、自主性・協調性・忍耐力などを身に付け、たくましく生き抜く力と思いやりの心を育てます。

（ネイパルあしよろ 足寄少年自然の家）



思いやる心を

ひとりぼっちじゃないと
教えてくれたのは
あなたの瞳の中の
わたしだった
思いを伝え合い
認め合い
互いを支え合う
そんな人と人との
かわりの中に
あたたかさがある